

真庭市 第 1 回図書館そだて会議レポート

真庭市図書館基本計画策定委員会 事務局作成

概要

館内見学ツアーを実施し、真庭市立図書館のサービスや施設を紹介。その後図書館についてグループディスカッションを実施。図書館についての想いや、これからの役割について意見交換を行った。

- 蒜山図書館 《日時》2020年9月17日（木）《参加人数》13名
- 北房図書館 《日時》2020年9月23日（水）《参加人数》6名
- 美甘図書館 《日時》2020年9月24日（木）《参加人数》9名
- 久世図書館 《日時》2020年9月24日（木）《参加人数》8名
- 湯原図書館 《日時》2020年9月25日（金）《参加人数》3名
- 落合図書館 《日時》2020年9月25日（金）《参加人数》10名
- 中央図書館 《日時》2020年9月26日（土）《参加人数》8名

7館計 57名

全体の考察

真庭市全 7 図書館で実施した「図書館そだて会議」で出た多様な意見を基に、今後真庭市図書館の役割や将来像として求められる要素を抽出。真庭市市民が図書館で実現したいと考えること、図書館に求めるものを整理・分析し、「新真庭市図書館基本計画」に反映していく。全館で共通する意見と、地域特性による地区館ならではの意見も見られたため、真庭市立図書館にもとめられていること、中央図書館としての役割、各地区館の役割、という 3 段階で内容を整理した。

真庭市立図書館にもとめられていること

- 子ども（とその保護者）や高齢者の読書や交流の場づくり
- 地域住民の顔が見える場づくり
- 郷土資料の保全・地域の情報発信
- 全 7 館の連携と、各館を窓口とした広い世界とのネットワーク

中央図書館としての役割

新たに整備された中央図書館として、地区図書館との連携を牽引していく司令塔としての役割を担っていくことが重要であると考えます。地区館で取り組み実績や、抱えている課題を吸い上げ、全館で共有することで全体に波及させていくことが必要である。そのためにも、イベントや展示企画の巡回等、情報を連動させる仕組みづくりも検討していく。地区館だけでなく、学校図書館など地域全体との連携の窓口として機能することを目指す。また、蔵書数の格差についての意見が複数館から出ていたので、選書方法の見直しや蔵書の巡回等も検討していく必要があると考えます。

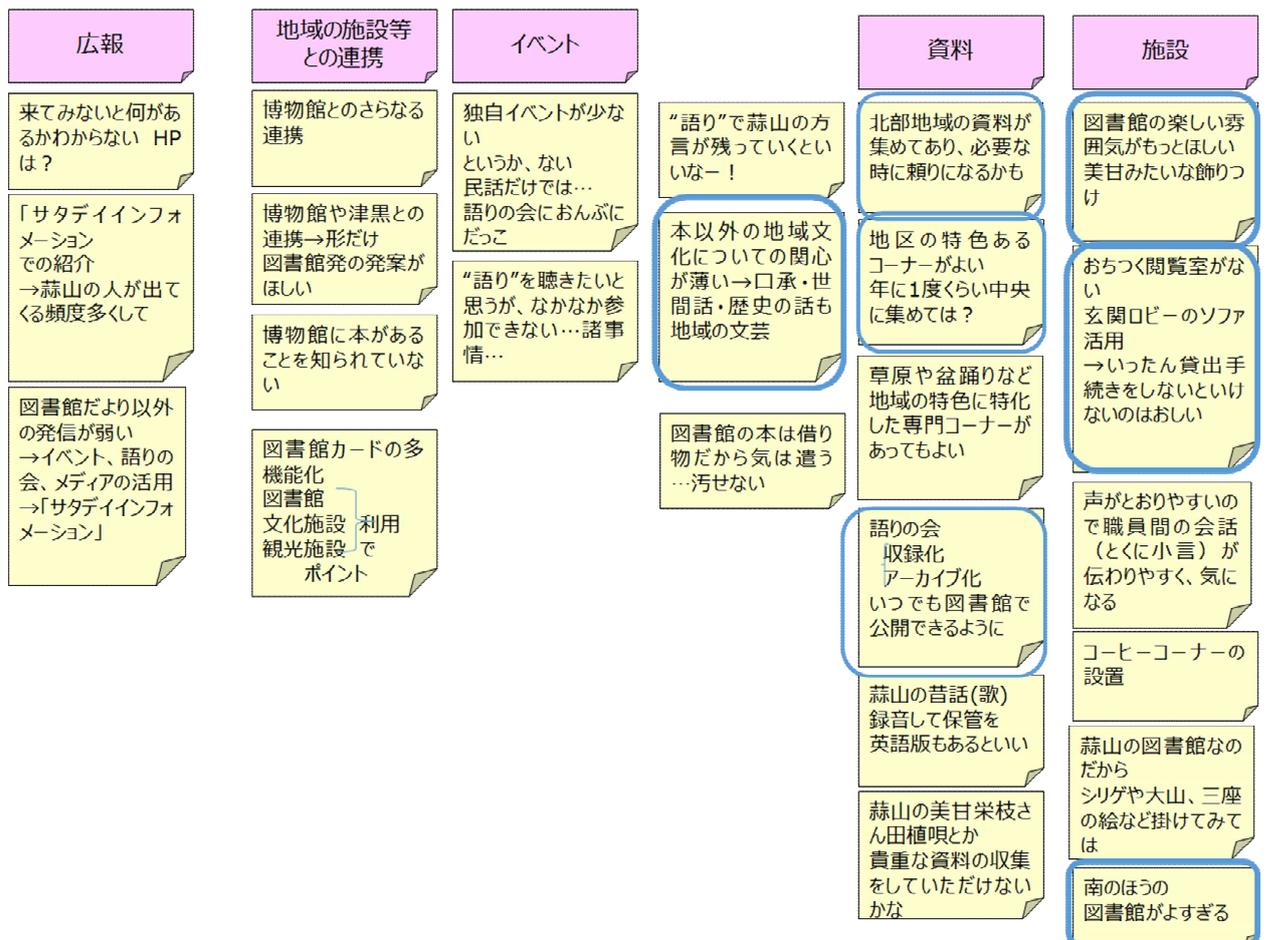
各地区館の役割

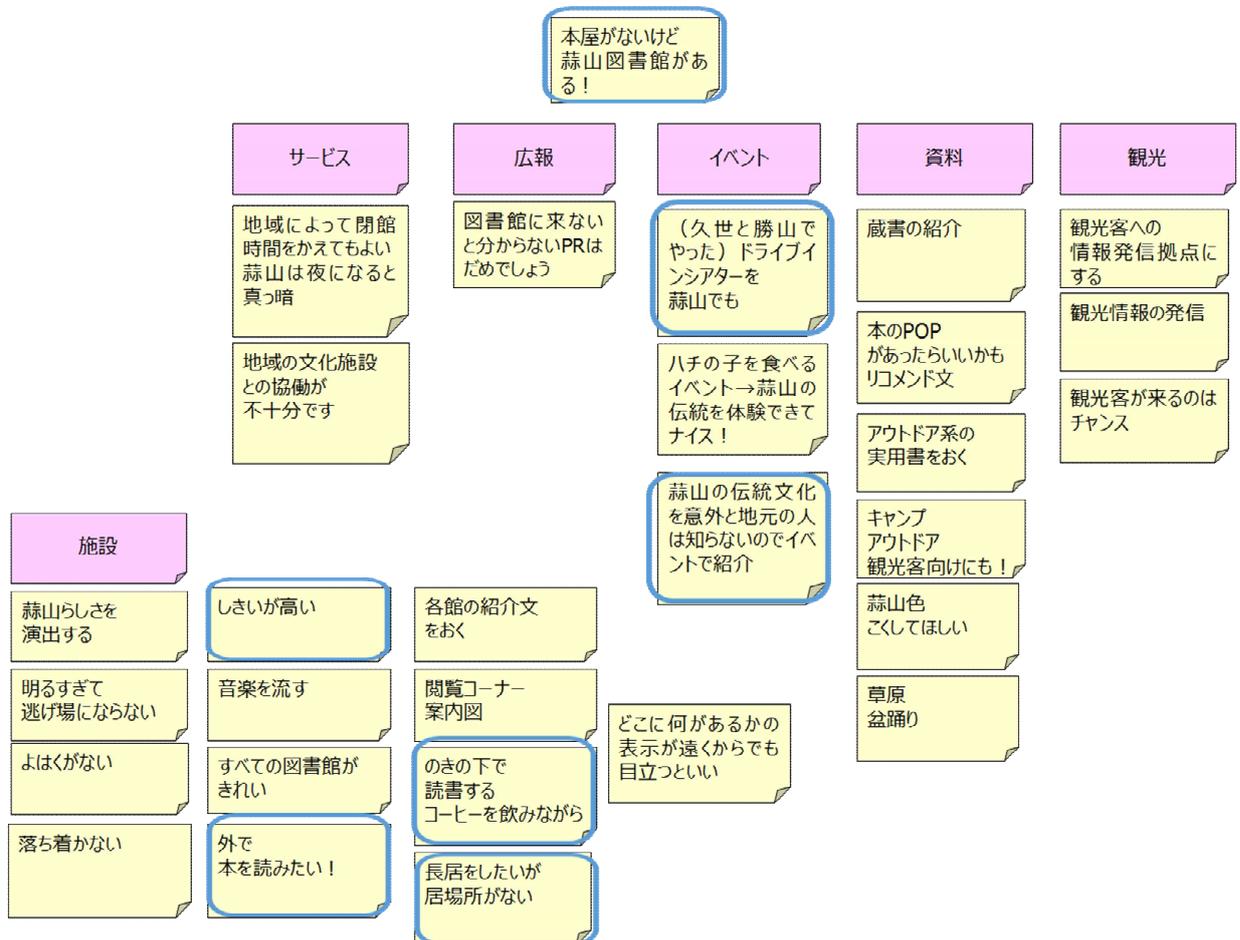
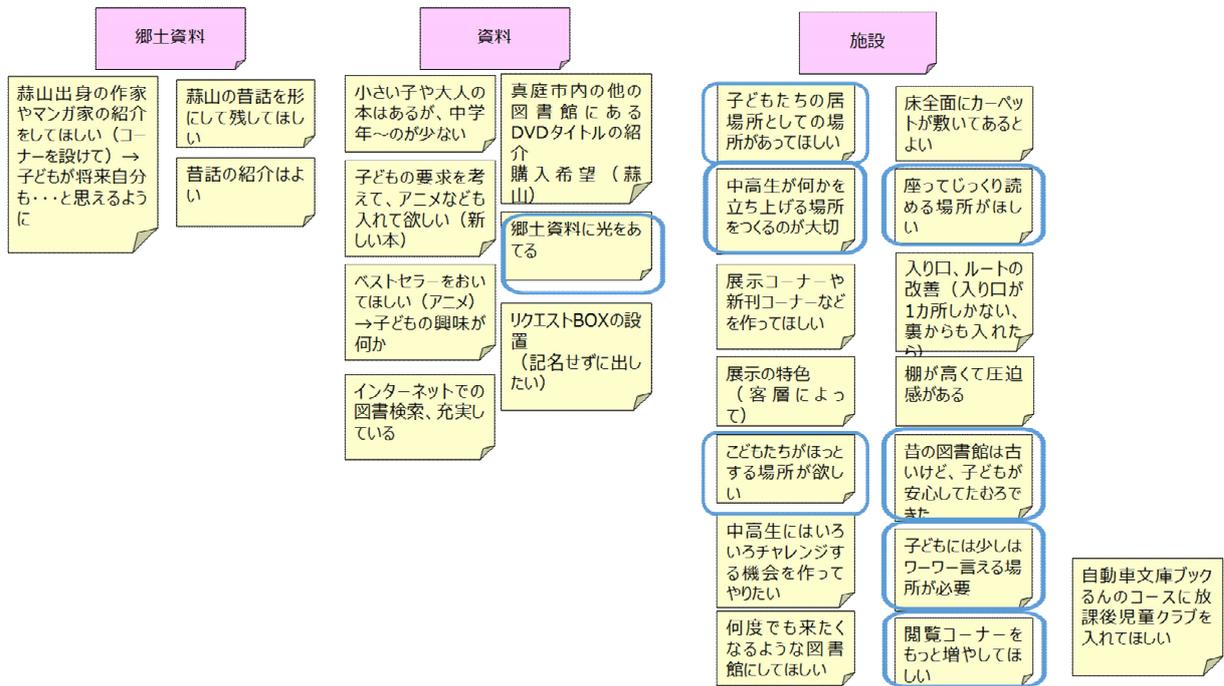
限られた人員での運営体制だからこそ、中央図書館、各地区館と連携し、レファレンス等、図書館サービスの質を維持することが求められる。また地区館として、郷土資料等、地域の情報の収集、整理、保全をし、中央図書館で集約、広く情報発信ができるようにする。また、地域の歴史や産業、観光資源に着目し、その地域の魅力を伝える役割も今後期待される

各図書館での会議概要・要点整理

蒜山

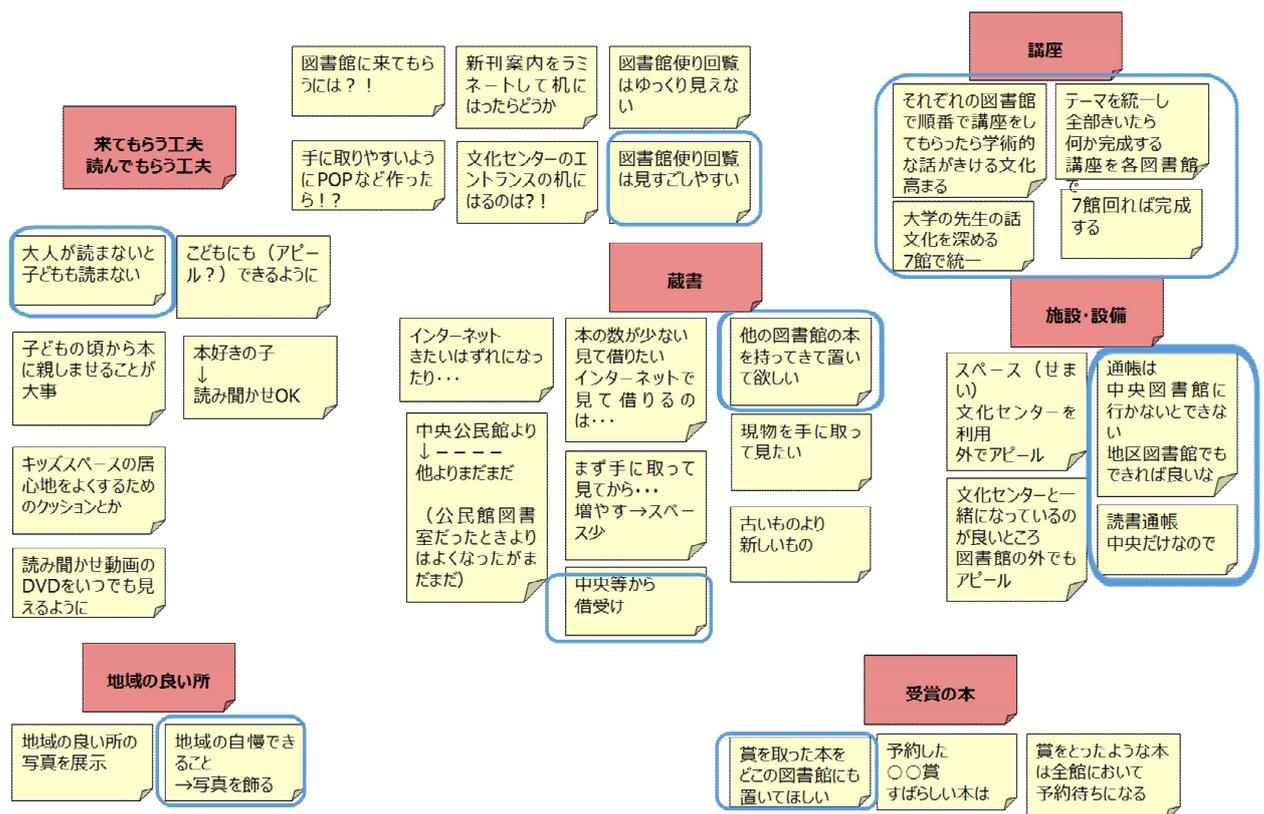
1. 「居場所」としての図書館を求める。本の貸出だけでなく、長時間滞在できる居心地の良さが求められている
2. 子ども、中高生にとっても有意義な場所が必要とされている。子どもが安心して過ごせる場所が減少しており、図書館にその役割を求めている
3. 地元の語りの会との連携や、郷土資料の保全や活用への意識が強い。市内のほかの地域のことも知りたい

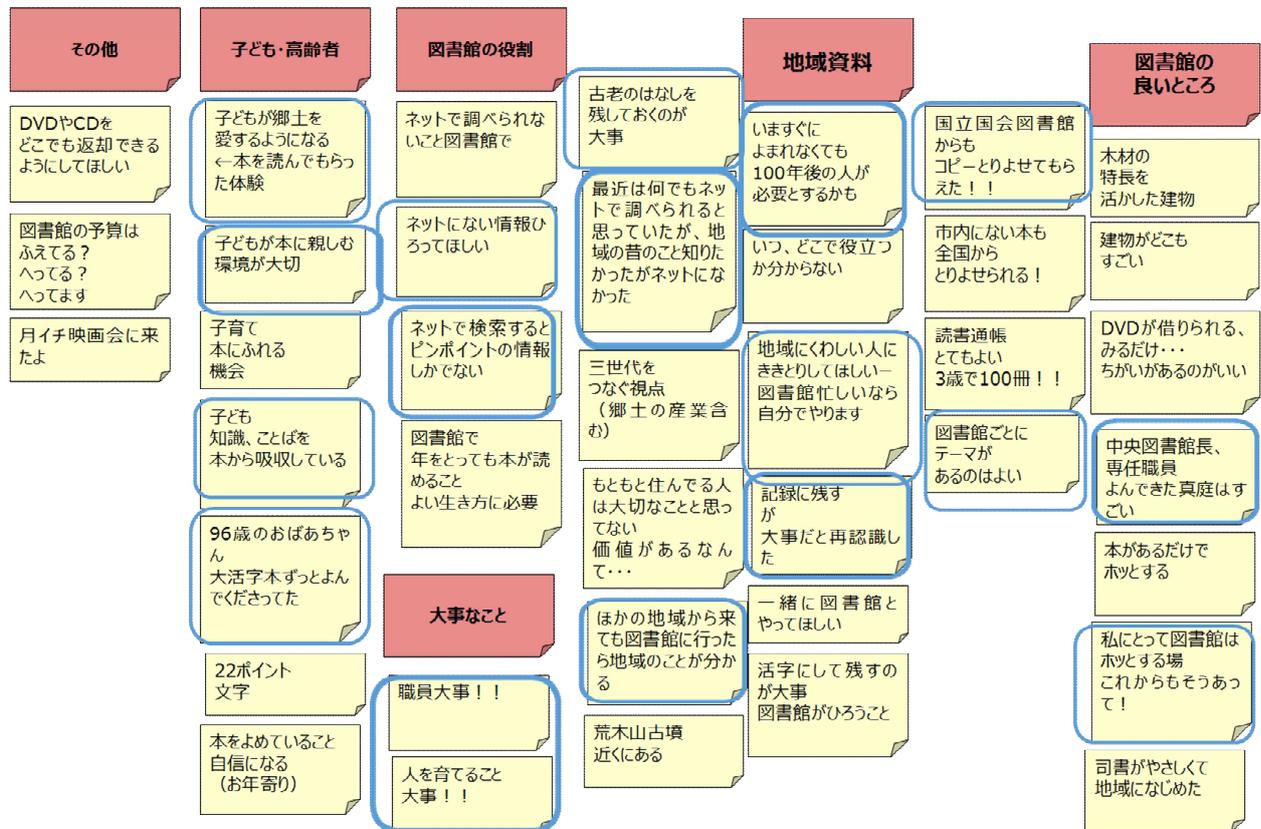




北房

1. ネット時代における図書館の役割を強く意識し、特に地域資料の保全の重要性を認識している
2. 司書や職員等人材育成の重要性をあげており、司書との関係性を意識していることが伺える
3. 子どもの読書活動のためにも、本に触れられる環境づくりを必要としている
4. 高齢者の読書の大切さにも着目
5. 資料運用、蔵書活用の工夫。7館、市域を越えた図書館ネットワークの活用





日常性を大切にする視点をこれまで通り維持してほしい。

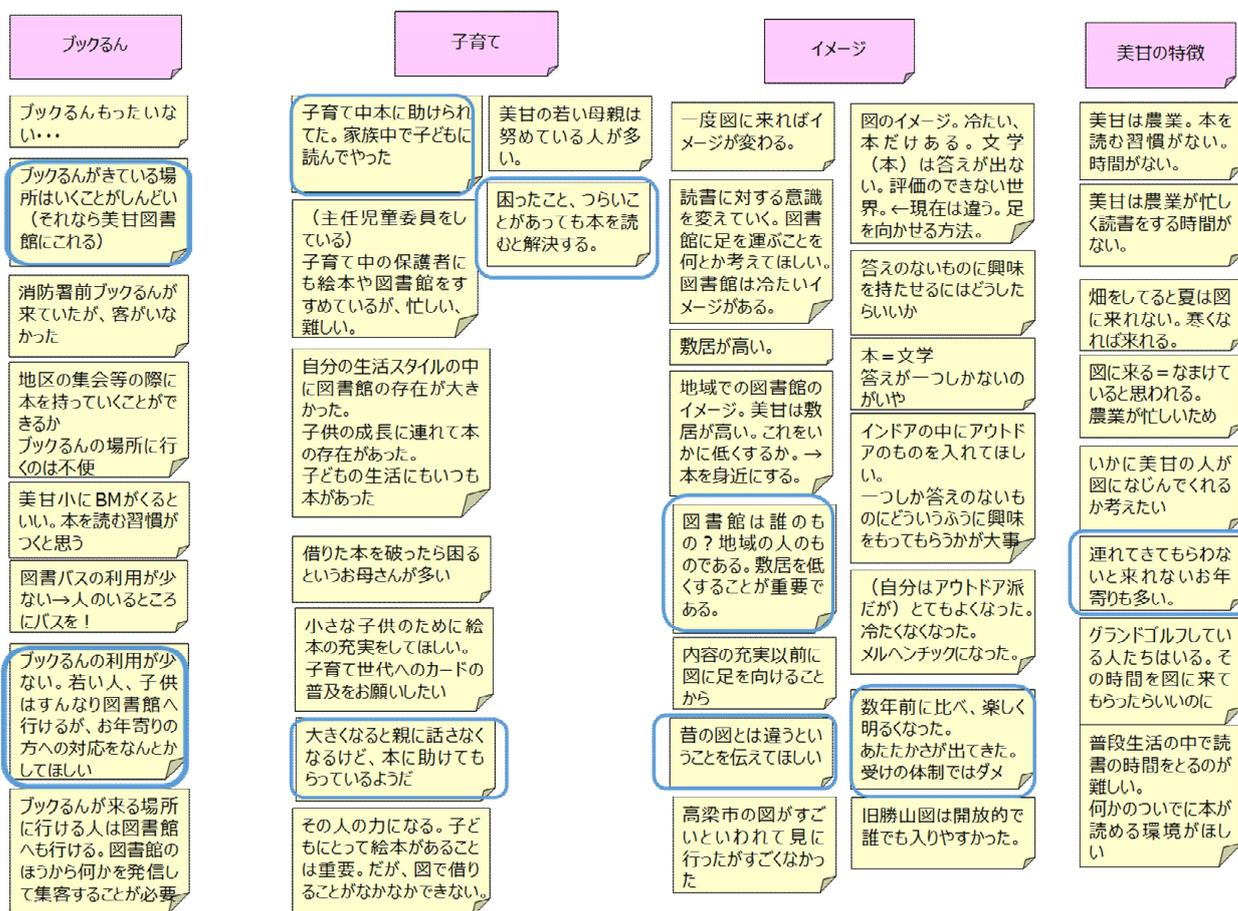
- ・図書館でこんな人がこんなことを書いているのかと考え本を手取るのは至福の時間
- ・図書館で調べものをしていて国会図書館から資料を取り寄せてもらったことがある。地方にいてもいつでもこうしたことができるのはうれしいこと
- ・本の感想など司書さんと話ができるのもありがたい
- ・年齢を重ねても学続けることをあきらめないために、大活字本の種類と数を増やしてほしい

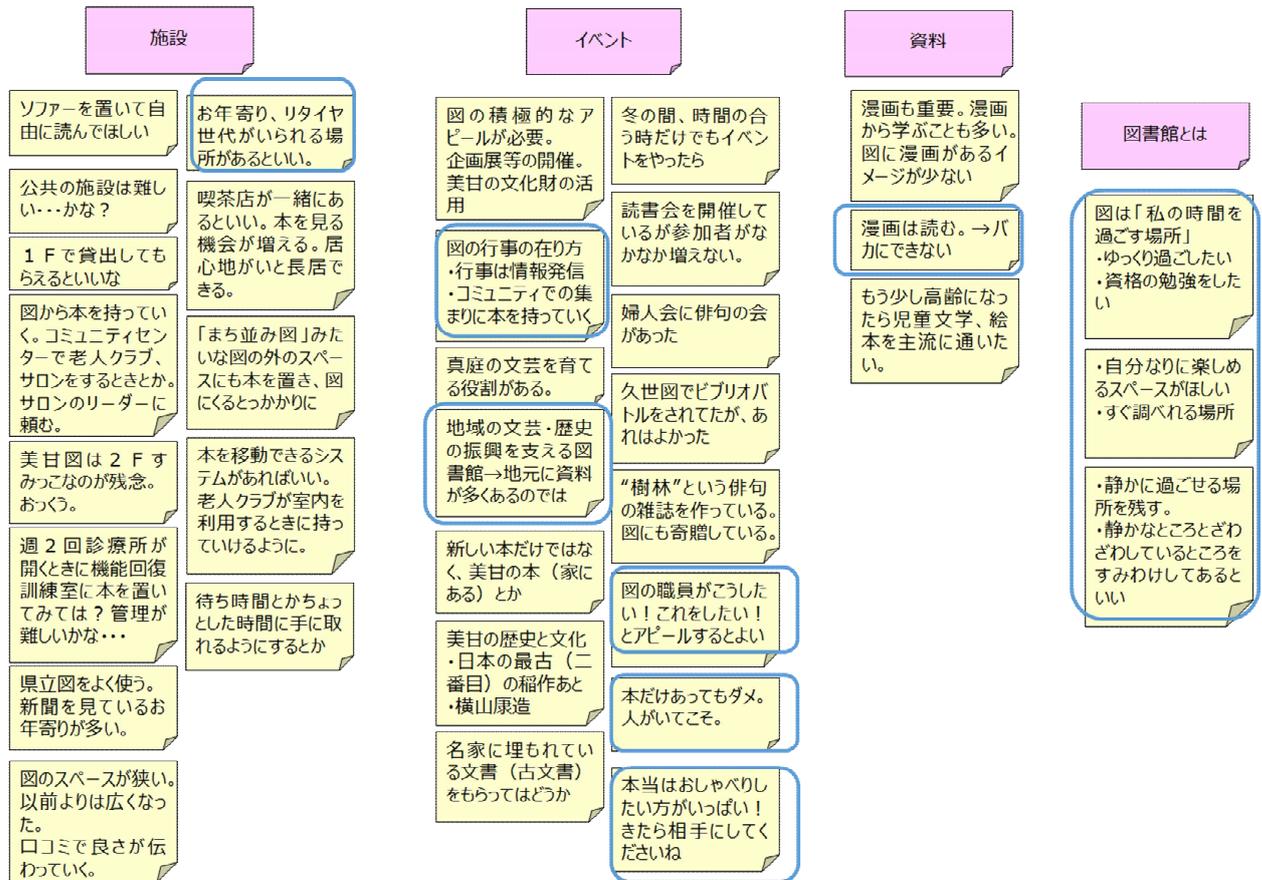
日常が豊かであることは、ささやかでも文化だと思う

後日いただいた意見

美甘

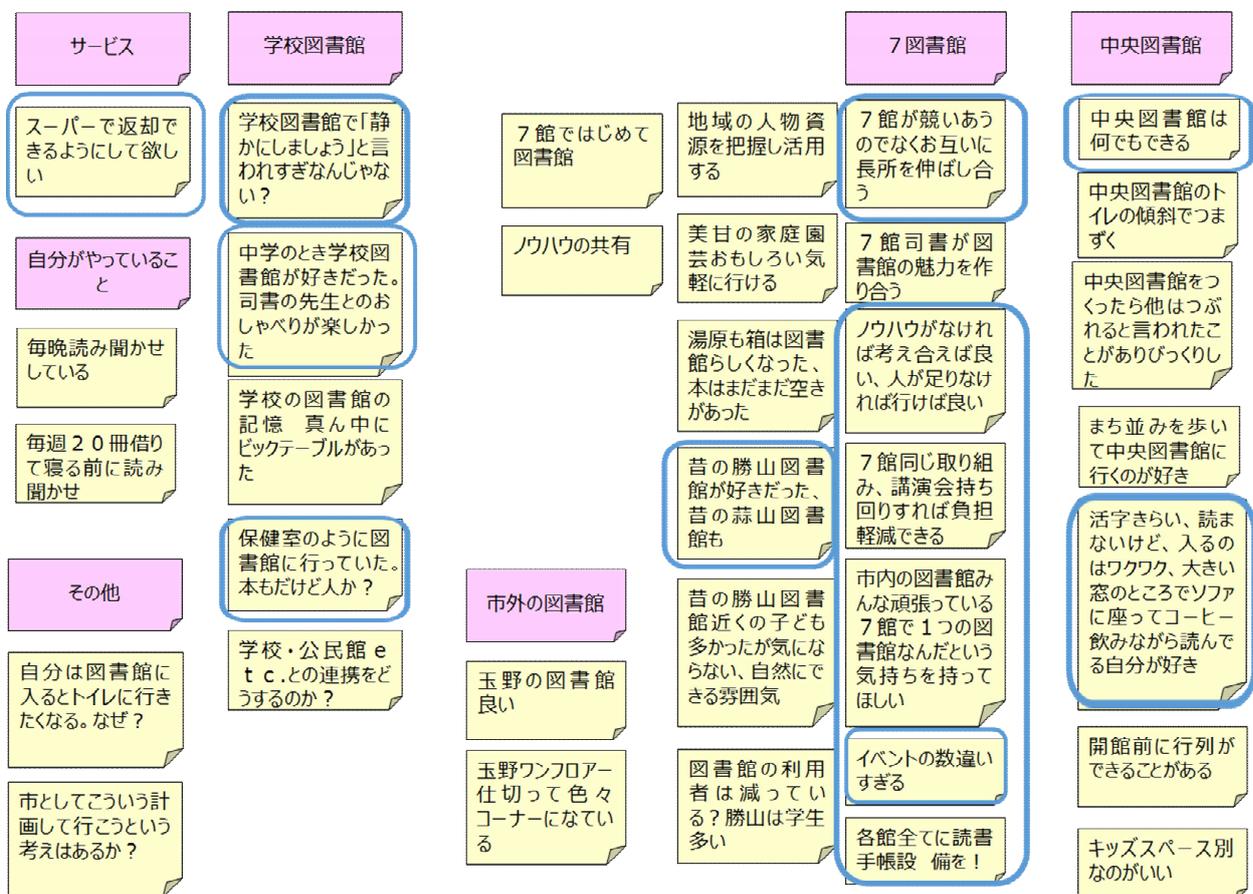
1. 図書館のイメージが閉鎖的で敷居が高いため、まずは誰でも入りやすい場所にしたい
2. 外（地域の集まりだけでなく、振興局内にも）へ出向いていくことも必要
3. 久世のようなイベントの開催の希望など、人のおしゃべりや交流を図書館に求めている
4. ぶっくるんの利用者が少なく活用されていない。図書館に行きづらい人に本を届ける工夫が必要
5. 図書館へのイメージの更新が必要。マンガや多様なジャンルの蔵書があることを知らせる
6. 住民の書斎のような場所も必要とされている

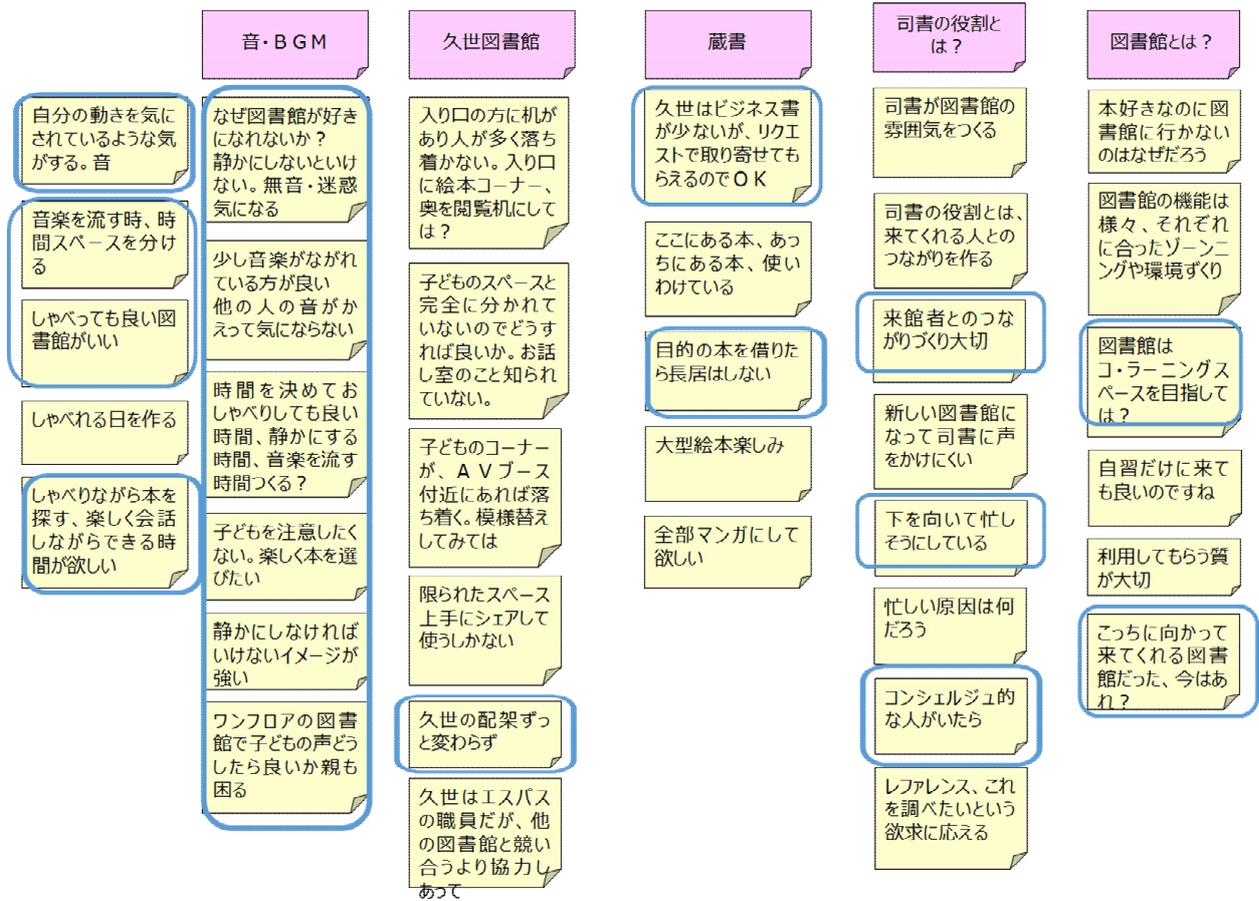




久世

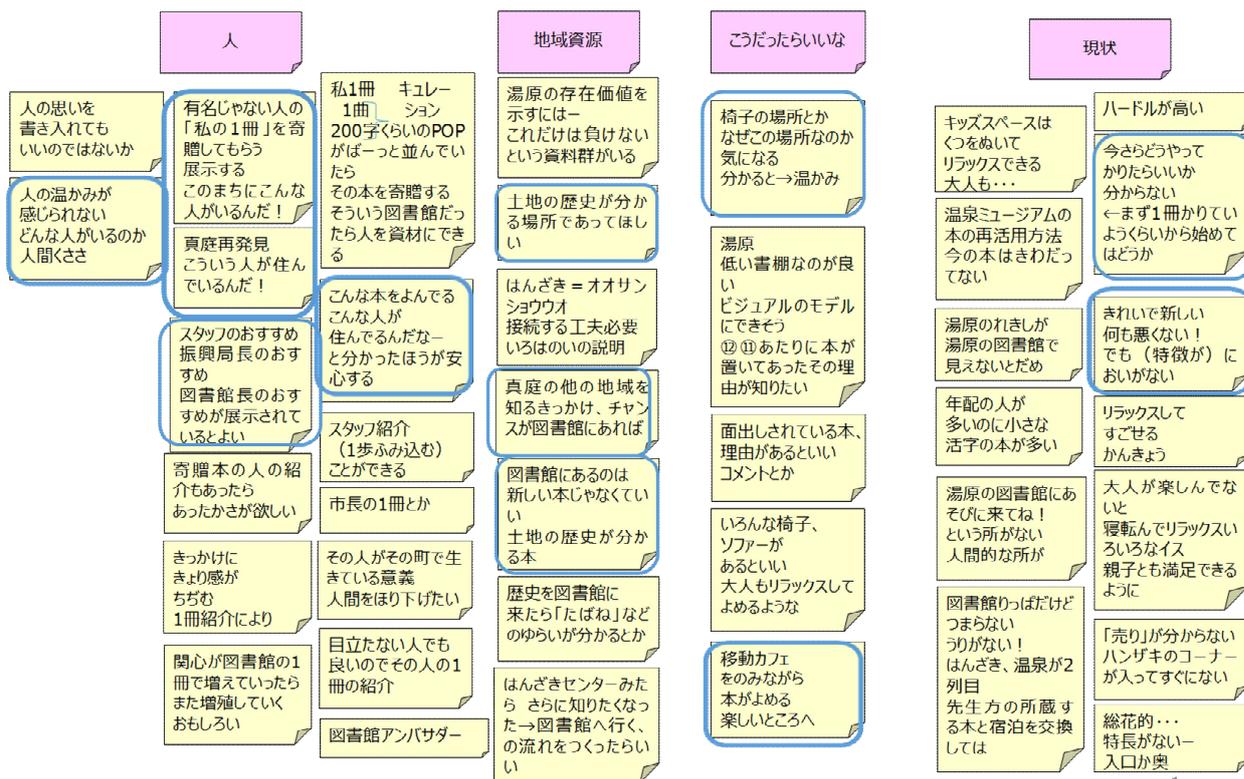
1. 以前は中央図書館の役割を担っていたからこそ、中央図書館との比較や、7館の図書館への意識が高い
2. 子どもがのびのびと楽しく利用できるような空間を求めている。子どもに限らず、大人にとっても静かすぎるのがストレスになっており、人とのコミュニケーションが楽しめるような図書館になってほしいという意向が見られる

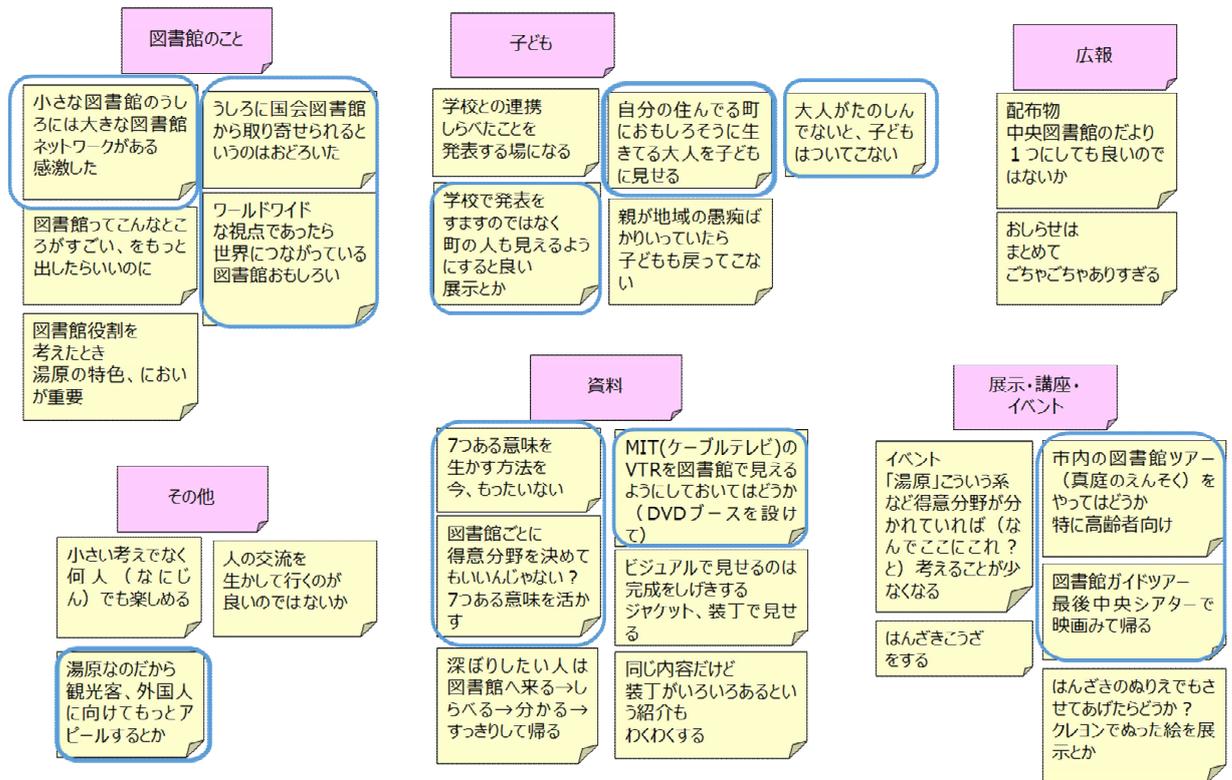




湯原

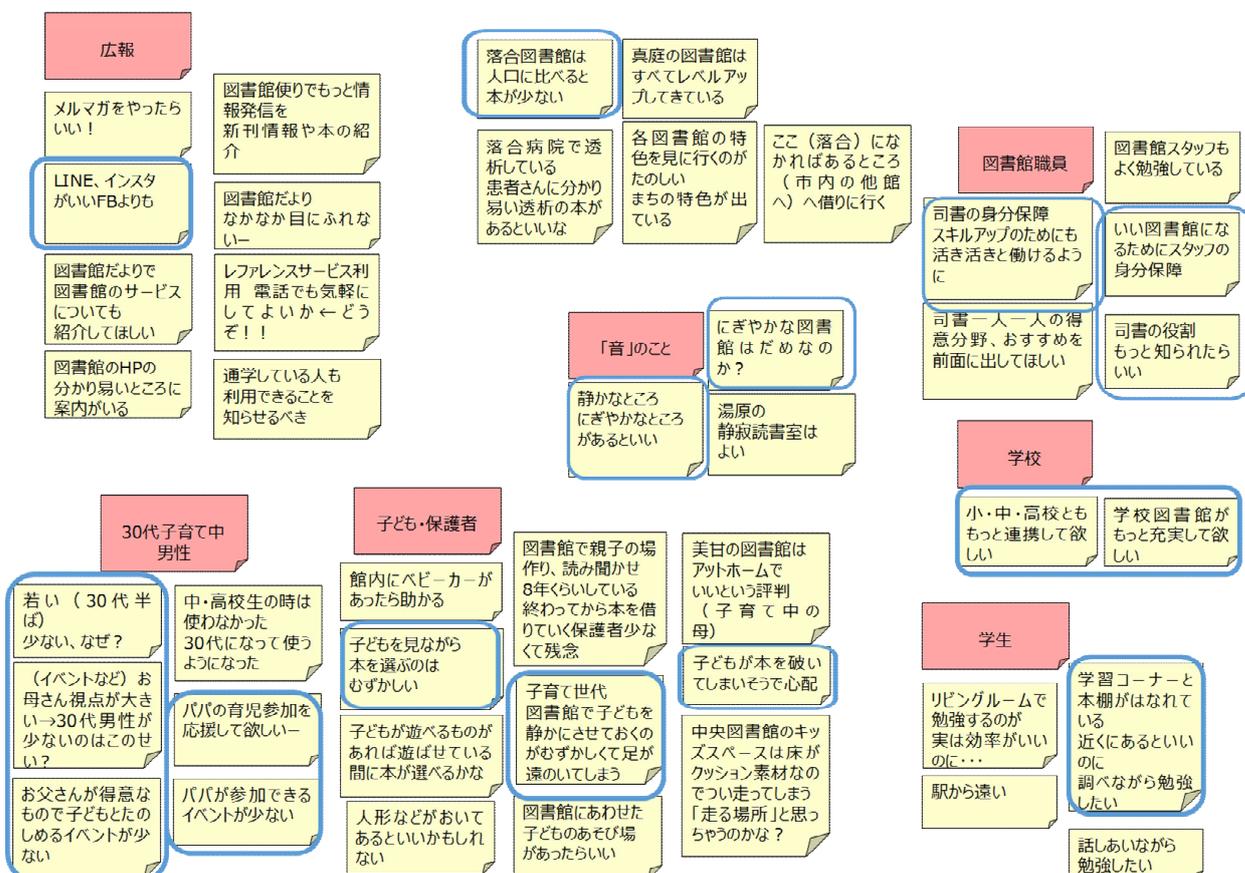
1. 半年前にリニューアルしたばかりなので、新しくきれいだが特徴がない、敷居が高いという意識がみられる
2. 人との交流や、人間味のあるサービスを求める傾向にある。
3. 観光地として、図書館も活用し外部の人を呼び込みたい、湯原の特徴をもっと打ち出していきたいという意識がみられる
4. 図書館員が当たり前と考えていることをアピールする必要あり 例) 図書館での本の借り方。図書館間ネットワーク
5. 温泉街とのタイアップの工夫





落合

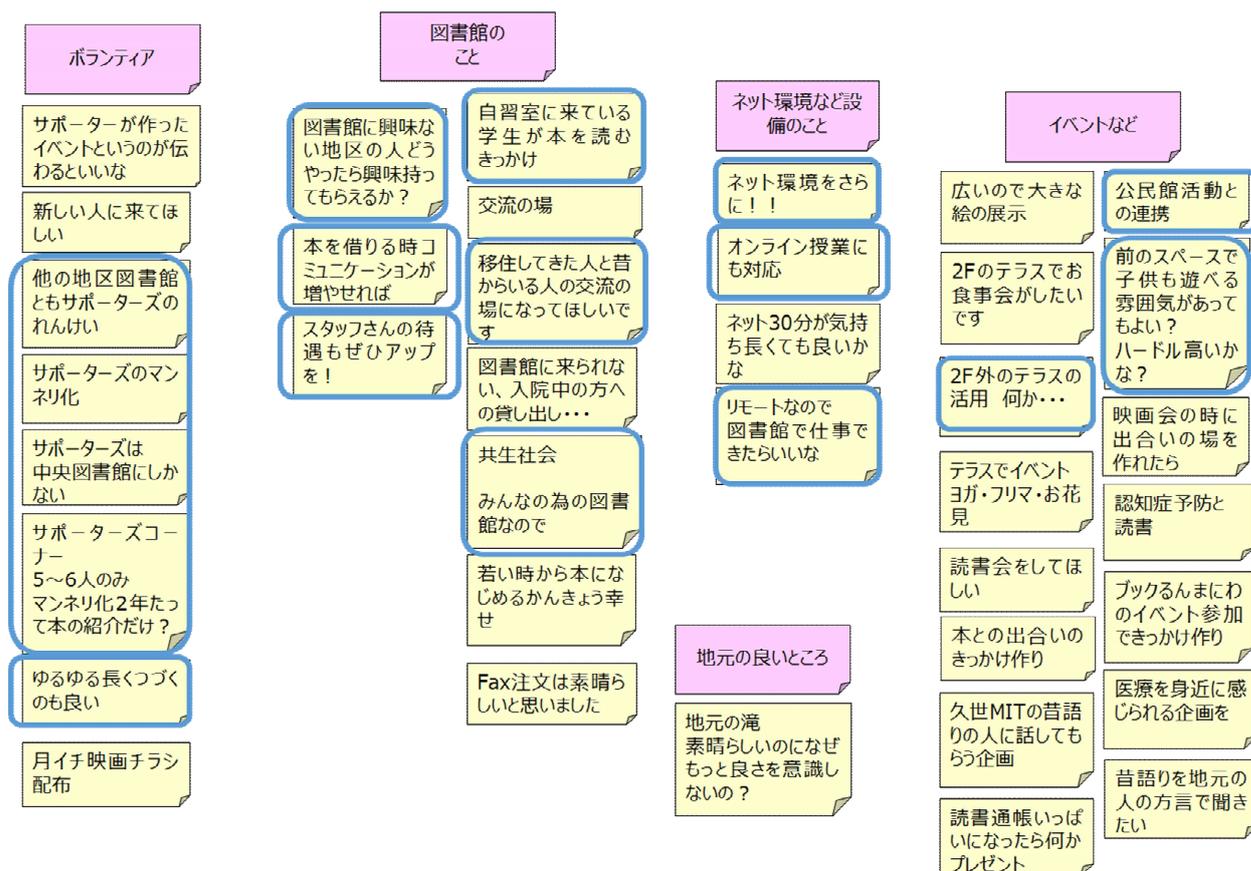
1. 子連れでの図書館利用のハードルの高さや、お父さんも参加できるイベントが少ないなど、子育て世代の目線での意見が目立つ
2. 蔵書の少なさを指摘しており、中央図書館や他館との連携が必要
3. 学校図書館との連携を求める意見がみられ、現状把握が必要
4. 図書館の「にぎやかさ」を考える必要がある（全館に共通）

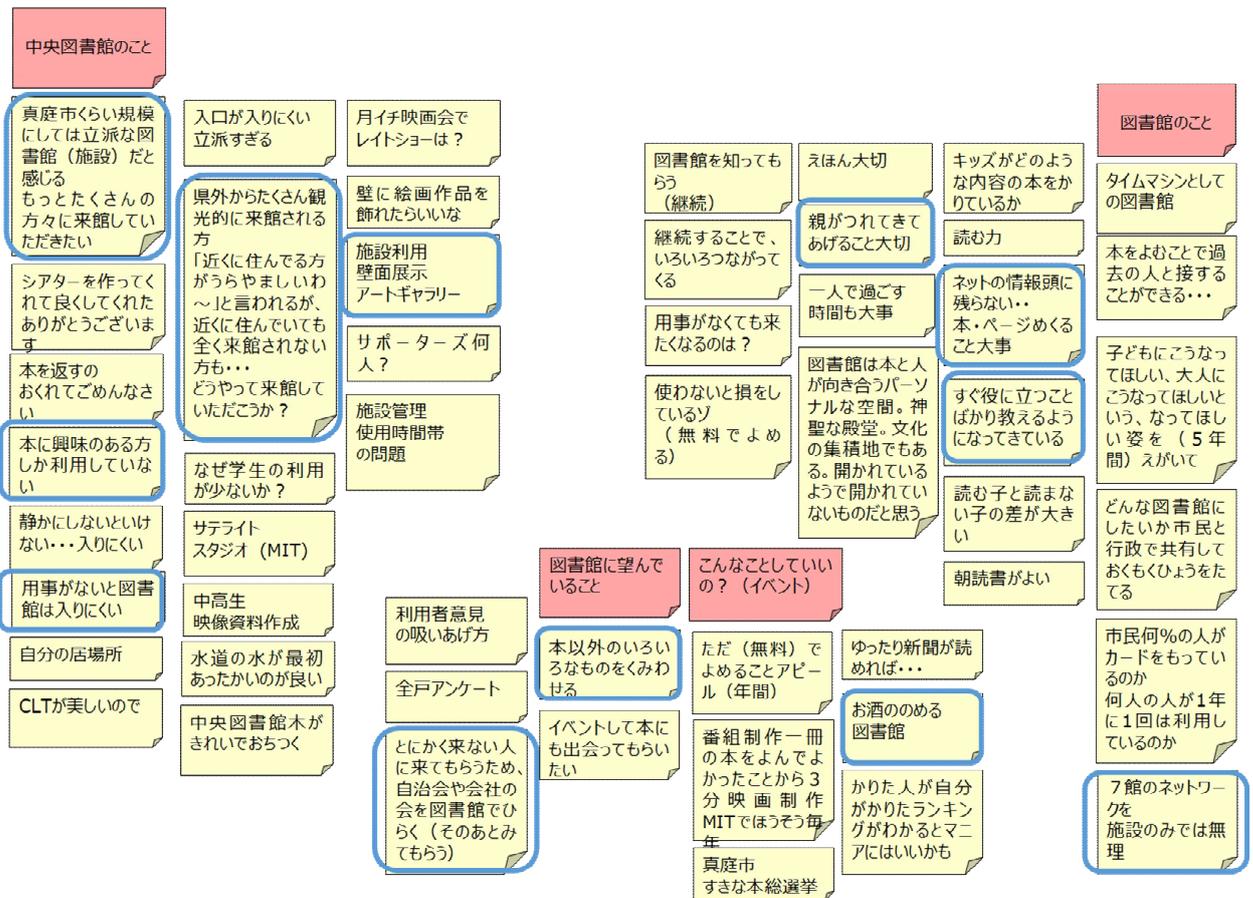


	蔵書	施設	サービス	イベント	PR方法
本の表紙が表になっているから興味を引く本を見つけられると思いました	県立より新刊が入るのが遅い	キッズルーム お母さんが気を遣うのではないかな	コピーサービスのこと知らなかった 図書館では著作権法による制限あり 振興局窓口では何でもOK	子どもがあつまりにくい 図書館でイベントしても両親が興味を持って連れてきてくれないとハードル高い 大人が楽しいから子どもを連れてくるくらいでないと	図書館に行くきっかけ作り大切
中央の本を巡回でまわして手に取ってみたい	健康子育ての本の展示を児童書のそばに	絵本の棚が少し低いのでは？	閉館時間を遅くしていただけたら30代にはありがたい	福袋	図書館の良いところを今日始めて知っていきたく思った→PRしてみたら良いのではないかな
開架の本を見てみたい	(案内の)字の大きさ 病気がみえるシリーズなど看護の本があるといい	視聴覚室で良く仕事で使っている時に電源が近くに欲しい	気にならないBGM(ボサノバ)くらいは良いのでは？ 学習室は静かがいい	生涯学習や公民館とコラボのプログラムイベントを定番にするのもアリかも？	子どもたちのお父さんお母さんにもっと興味を持ってもらえるように
もっと表紙の見える置き方にしてほしい	落合には看護・医療の本あったが真庭で多い病気の本を重点的に集めるとか	学習スペースをもう少し広くしてもらいたいと思います	インターネット検索で表紙が見える方がイメージしやすい	コロナが終わったら生涯学習へ行きたい	本の取り寄せできることをもっとPRすると良い
学校の連携で図書館の本をまわしてあげると良い	本が思っていたより少なかった	学習スペースで勉強していて分からないことを本で調べたい			
図書館と学校の連携	寺社が多いので宗教の本(仏教・神道)の特集もたまにしてほしい				

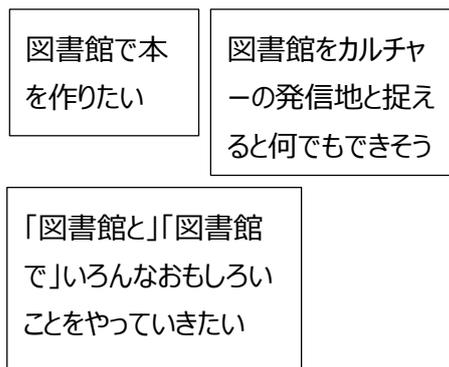
中央

1. せっかく立派な図書館が出来たので、もっと地元の人に来て活用してもらいたい、そのためのきっかけ作りの必要性を感じている
2. 2階のテラスや、正面口前のスペースなど、設備が整っているのに活用できていない、場所を使って、読書・本に限らず色々なことをやってみたいという意識がみられる
3. 開館準備時には盛り上がっていたサポーターズの活動の停滞感が見られる。ゆるく長く続けられるような仕組みづくりが必要
4. ネット環境の整備が、新しい利用者開拓につながるのではないかという意見がみられた
5. 市民のアイデアを受け入れること。トライ＆エラーでも良い。すぐに役立たなくてもよいという視点





後日いただいた意見



以上